

よくあるご質問と回答

Rev.1.6

Arcserve Unified Data Protection v6.5

全般

Q1. Arcserve Unified Data Protection (以下 Arcserve UDP と表記) とはどのようなソフトウェアですか？

サーバやクライアント PC のデータを動作させたまま OS から丸ごと保護できるイメージ バックアップ製品です。

サーバ単体での保護はもちろん、複数サーバの包括的な保護ができます。重複排除機能や、仮想環境も物理環境も同時に保護できる集中管理機能を提供しています。

さらに、確実にデータとアプリケーションを利用できる状態に保つ遠隔地の仮想スタンバイ機能などあらゆるバックアップ / リカバリのニーズに対応できる豊富な機能を標準搭載しているソフトウェアです。IT の専門知識がなくても簡単に使いこなせ、手ごろな価格で迅速にバックアップ運用を開始できることが大きな特長です。

Q2. どのようなユーザが対象ですか？

特定ユーザや業種に限定される製品ではありません。小規模から大規模環境まで幅広く対応できます。IT の専門知識を持たないユーザや、投資を最小限に抑えつつ簡単かつ必要十分なシステム保護を実現したいユーザ、または大量の仮想サーバや膨大な量のデータのバックアップ管理が必要なユーザや、物理・仮想・クラウドが混在する環境を単一の製品で保護したいユーザにも最適な製品です。

Q3. Arcserve UDP にはどのような機能が提供されていますか？

Arcserve UDP は個別のマシンバックアップにとどまらず、コンソール画面から保護対象マシンの一元管理機能を提供します。Arcserve UDP には、Advanced / Premium / Premium Plus の3つのサーバ OS 用のエディションがあり、バックアップ運用には欠かせない、バックアップ データの重複排除、柔軟なバックアップ スケジュール、バックアップ データの遠隔転送、仮想スタンバイ、インスタント VM、テープへのバックアップなどを Advanced エディションの機能として提供しています。

Premium エディションでは上記に加え、役割ベースの管理やアシュアードリカバリ、ハードウェアスナップショット、Arcserve Backup の全機能、Arcserve Replication のファイルサーバシナリオをご利用いただけます。

Premium Plus エディションでは、更に Arcserve Replication & High Availability の全機能をご利用いただけます。

詳しくは製品概要および製品カタログ、製品紹介 Web サイトをご覧ください。

ライセンスについて

Q1. Premium / Premium Plus Edition のライセンス対象である CPU ソケットは対象サーバで現在利用している

CPU ソケット数ですか？それとも最大搭載可能 CPU ソケット数ですか？

現在利用されている CPU ソケット数がライセンス対象になります。

Q2. CPU ソケット単位のライセンスは物理サーバの Advanced Edition にも適用できますか？

はい、適用できます。物理環境のサーバでは、サーバ単位と CPU ソケット単位どちらでもご購入いただけます。

Q3. Premium / Premium Plus Edition は物理（非仮想化）サーバに適用できますか？

はい。物理サーバのシステム・データ保護にもご利用いただけます。

Q4. Premium / Premium Plus Edition に含まれる Arcserve Backup のサポート環境や機能はなんですか？

日本で販売している Arcserve Backup r17.5 と同じ環境、同じオプション / エージェント製品、同じ機能をサポートします。詳細な環境は Arcserve Backup の[動作要件](#)や[注意/制限事項](#)をご覧ください。

Q5. Premium Edition に含まれる Arcserve Replication のサポート環境や機能はなんですか？

Premium Edition に含まれる Arcserve Replication の機能は、ファイルサーバシナリオのみ利用できます。データベースやアプリケーションの複製、ファイルサーバを含む Arcserve High Availability のスイッチオーバー機能をご利用になる場合は、Premium Plus Edition をお求めください。

Q6. Premium Plus Edition に含まれる Arcserve Replication/High Availability のサポート環境や機能はなんですか？

日本で販売している Arcserve Replication / High Availability r16.5 と同じ環境、同じ機能をサポートします。詳細な環境は Arcserve Replication / High Availability の[動作要件](#)や[注意/制限事項](#)をご覧ください。

Q7. バックアップ対象が仮想マシンの場合はどのライセンスを購入すればいいですか？

仮想環境をバックアップされる場合は、ゲスト OS の数に関係なく、仮想ホストが利用している CPU ソケット数分のソケット ライセンスをお求めください。Microsoft Hyper-V 環境の場合には、管理 OS（ホスト OS）も同じライセンスでバックアップできます。

Q8. バックアップ対象の容量でライセンスを購入することはできますか？

はい。バックアップ対象の合計容量でライセンスをご購入いただける容量単位のライセンスを提供しています。物理・仮想環境に関わらず、ご利用いただけます。

Q9. 異なるハードウェアにベアメタル復旧するために追加オプションの購入は必要ですか？

いいえ、必要ありません。標準機能としてご利用いただけます。

Q10. 異なるハードウェアにベアメタル復旧する場合、バックアップを行っていたサーバと復旧先のサーバの双方にライセンスが必要ですか？

いいえ。ベアメタル復旧を行うために、復旧先サーバのライセンスは不要です。

復旧したサーバと以前のサーバ 2 台でバックアップ運用を行われる場合には、双方にライセンスが必要になります。

Q11. 仮想マシンのエージェントレス バックアップはできますか？ 追加オプションなどを購入する必要はありますか？

追加オプション等を購入することなく、すべてのエディションで VMware vSphere および Microsoft Hyper-V の仮想マシンをエージェントレスでバックアップできます。Arcserve UDP のエージェントレス バックアップでは、ファイル単位のリストアや、アプリケーション (Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Oracle DB、Microsoft SharePoint) のオンライン バックアップもサポートします。

Q12. クラウド上の仮想サーバの場合には、どのライセンスを購入すればいいですか？

1 台のクラウド仮想サーバあたり 1 ソケット分の CPU ソケット ライセンスをご購入ください。クラウド環境の仮想サーバでは、仮想 CPU 数や仮想コア数に関係なく、常に 1 ライセンスになります。

Q13. Nutanix などのハイパーコンバージドインフラの仮想環境をバックアップする場合のライセンスはどのように数えますか？

ハイパーコンバージドインフラも仮想環境の 1 つであるため、CPU ソケット単位のライセンスをお求めください。必要なライセンス数は、ハイパーコンバージドインフラに搭載されるホストサーバ (VMware ESXi / Microsoft Hyper-V / Acropolis) の CPU ソケット合計数になります。バックアップ データ量で課金する容量単位のライセンスもご利用いただけます。

動作要件およびサポート構成について

Q1. どのプラットフォームで動作しますか？

Arcserve UDP は、物理 / 仮想環境の Windows OS および Linux OS で動作します。主な対応環境は、Windows Server 2016 / 2012 R2 / 2012 / 2008 R2 / 2008、および Windows 10 / 8.1 / 8 などの Windows 系 OS と、Red Hat Enterprise Linux、CentOS、SUSE Linux Enterprise Server、Debian、Ubuntu (UDP v6.5 Update2 より) などの Linux 系 OS になります。

詳細な動作要件は[こちら](#)をご覧ください

Q2. Arcserve UDP でオンライン バックアップができるアプリケーションはなんですか？

Arcserve UDP は、Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Oracle DB、Microsoft SharePoint の 4 つのアプリケーションに対応しています。また、Office365 環境用の追加サブ スクリプションにより Microsoft Exchange Online (UDP v6.5 より対応、UDP v6.5 Update 2 より重複排除を利用可) や SharePoint Online (UDP v6.5 Update 3 より対応、重複排除も利用可) のバックアップにも対応します。仮想環境の場合でも、エージェントレス バックアップの手法で同じアプリケーションをオンラインでバックアップできます。Microsoft SQL Server は Point in Time リストアで、任意の時点に戻すことができます (UDP v6.5 Update4 より対応)。

各アプリケーションの対応バージョンや必要な対応モジュールは Arcserve UDP の[動作要件](#)をご参照ください。

Q3. Arcserve UDP のオンライン バックアップに対応しないアプリケーションのバックアップはどうすれば良いですか？

Arcserve UDP はバックアップ時 (バックアップ前 / スナップショット取得前 / スナップショット取得後 / バックアップ後) に任意のスクリプトを指定できます。この機能により、スナップショット取得までの短い時間だけアプリケーションを停止させ、オフライン状態でバックアップを行えます。Arcserve UDP はアプリケーションに依存しない、ファイルとしての保護を行います。

VMware vSphere / Microsoft Hyper-V 環境でエージェントレス バックアップを行う場合でも、バックアップ時にスクリプトを実行できます。バックアップ時に停止が必要となるアプリケーションは、バックアップ前とスナップショット取得後にスクリプトにて停止 / 開始を行ってください。

Q4. Microsoft Hyper-V の管理 OS (ホスト) に Arcserve UDP エージェントをインストールし単独で利用する場合、仮想マシンのオンライン バックアップはできますか？

はい。Microsoft Hyper-V の仮想マシンのオンライン バックアップおよび管理 OS を含めたシステム全体の復旧ができます。この方法では仮想マシン全体の復元となり、ファイル単位やアプリケーション単位のリストアには対応していません。仮想マシン内のファイルやアプリケーション単位のリストアが必要な場合には、Arcserve UDP 管理コンソールおよびバックアップ プロキシを構築し、エージェントレス バックアップを行ってください。

Q5. Microsoft Active Directory のドメインコントローラをサポートしますか？

はい、サポートします。

以下の表にて使用可能な Active Directory の復旧方法をご確認ください。

復旧方法 バックアップ方式	バックアップ 対象	権限のない復元 (非 Authoritative リストア)	権限のある復元 (Authoritative リストア)	オブジェクト 単位復旧
エージェント ベース	物理マシン	○ ※1	○ ※4	○
	仮想マシン	○ ※1, ※3	×	○
エージェントレス	仮想マシン	○ ※2, ※3	×	×

※1 ベアメタル復旧で復元します。

※2 Windows Server 2012 以降の OS では、「仮想マシンの復旧」をご利用いただけます。

※3 仮想環境で Active Directory の全体復元を行う場合、日本マイクロソフト株式会社の「仮想化セーフガード」の仕様に基づき、「権限のない復元」のみサポートされています。(復元にあたり、複製元となる別のドメインコントローラが必要となります)

※4 Active Directory が物理環境に構築されている場合は、ベアメタル復旧後に OS の ntdsutil コマンドを使用して「権限のある復元」を実行できます。詳細な情報は[コチラ](#)をご参照ください。

Q6. クラスタ構成をサポートしますか？

MSFC / MSCS ファイルサーバと、Microsoft SQL AlwaysOn Availability Group (AAG) クラスタでの利用をサポートします。また Hyper-V ライブ マイグレーション環境に構築される CSV 上の仮想マシンもサポートします。CSV 上の仮想マシンはエージェントレス、もしくは各仮想マシンにエージェントをインストールしてバックアップを行ってください。その他のクラスタ構成をバックアップには、Arcserve Backup をご利用ください。

Q7. Hyper-V レプリカ をサポートしますか？

はい、スタンドアロン構成のゲストとホストのバックアップをサポートします。ゲストはプライマリ仮想マシン（複製元）からバックアップを実行してください。（技術情報 [206058443](#) も合わせて参照してください）

Q8. 対象のサーバをバックアップする際に、別サーバをバックアップ サーバとして構築する必要はありますか？

いいえ。Arcserve UDP を対象のサーバに導入し、バックアップ、リストアができます。Arcserve UDP のエージェントのみを導入することで、基本的なバックアップおよびリストアができます。より高度な機能（例：重複排除など）を利用される場合には、Arcserve UDP の管理コンソールと復旧ポイント サーバを導入してください。

Linux 環境の場合に、UDP Agent for Linux を導入したサーバが最低 1 台必要となります。他のバックアップ対象の Linux サーバには UDP エージェントを個別に導入する必要はありません。

Q9. UDP Agent for Linux のバックアップ先に復旧ポイント サーバを使用できますか？

はい、使用できます。

復旧ポイント サーバをご利用いただくことで、バックアップの継続増分運用ができます。さらに重複排除や復旧ポイントの転送など、より高機能のバックアップを運用できます。復旧ポイント サーバを利用するには UDP コンソールも別に必要となり、それぞれ導入先に Windows Server 2008 R2 以降の Windows サーバが必要となります。（同じサーバに導入することもできます）

Q10. Arcserve UDP v6 からのアップグレードはできますか？また、設定は引き継がれますか？

はい。ノード、プラン等の基本設定も含め、引き継ぎます。

増分バックアップ運用を行っている環境では、アップグレード後、最初のバックアップは自動的に検証バックアップに切り替わります。（重複排除の場合には、フルバックアップに切り替わります）その後は元の設定と同じく、継続増分の運用になります。

引き継ぎが可能となるのは、Arcserve UDP v6 Update 1 以降からのアップグレードになります。

Q11. Arcserve UDP のプランを新規の環境に移行できますか？

はい、UDP v6.5 Update 2 よりサポートします。

コマンド (ConsoleMigration.exe) により、Arcserve UDP コンソール環境そのものを新規の環境に移行できます。詳細は [コチラ](#) をご覧ください。

Q12. バックアップ プロキシとはなんですか？

仮想ホストから仮想マシンの情報を受け取り、バックアップおよびリストア データの受け渡し処理を行うサーバです。バックアップ プロキシの構築は、プロキシとして設定するサーバ（物理環境もしくは仮想マシン）に Arcserve UDP Windows エージェントを導入するだけの簡単設定になります。

Q13. バックアップできるボリュームサイズに制限はありますか？

はい、Windows では、1 ボリューム 64TB までバックアップ可能です。64TB 以上のデータをバックアップする場合は、ボリュームを分割してください。Linux 環境では制限はありません。

Q14. CIFS や NFS 共有のバックアップはできますか？

はい、できます。UDP v6.5 から CIFS 共有フォルダの UNC パス (¥¥ホスト名¥共有名) および NFS 共有フォルダ (UDP v6.5 Update4 より対応) を指定することでファイル単位の継続増分バックアップができるようになりました。これにより、エージェントをインストールできない NAS やストレージ、USB 接続などの外付け (リムーバブル) ディスクのデータもバックアップできます。さらに UDP v6.5 Update 2 より重複排除の利用が拡張され、バックアップ サイズを抑えた運用をサポートします。

Q15. Hyper-V 環境のエージェントレス バックアップにはどんな方法がありますか？

Hyper-V 環境のバックアップには二種類のエージェントレス バックアップの方法があります。

- ・仮想マシンのエージェントレス バックアップ (プロキシ経由)

一般的にエージェントレス バックアップといえ、この方法を指します。バックアップの設定は UDP コンソールから行い、各仮想マシンをエージェントレスでバックアップします。この方法では、仮想マシン単位の復旧のほか、ファイル単位でもリストアできます。Hyper-V ホストのバックアップには、ホスト サーバにエージェントを導入して行います。

- ・Hyper-V ホスト丸ごとのバックアップ

Hyper-V ホストにエージェントを導入し、Hyper-V ホストを丸ごとバックアップします。この方法は、Hyper-V ホスト上の仮想マシンも一括でバックアップしますが、復旧の単位は仮想マシン単位になります。ファイル単位のリストアは行えません。バックアップの設定は UDP コンソール、または UDP エージェントの GUI から行います。

エージェントレス バックアップの他、各仮想マシンにエージェントを導入して物理サーバと同じようにバックアップする方法もサポートしています。

Q16. VMware バックアップ プロキシ サーバとして、Windows Server 2016 環境をサポートしますか？

はい。Arcserve UDP v6.5 Update1 よりサポートします。

VDDK 6.5.1 以降が必要になるため、VDDK 6.5.2 を組み込んでいる UDP v6.5 Update 2 を適用してください。(UDP v6.5 Update 1 をご利用の場合には、ヴイエムウェア株式会社より提供される VDDK 6.5.1 が必要になります。マニュアル記載の[適用方法](#)をご覧ください。)

Q17. UDP で行う通信にセキュアなプロトコルを使えますか？

はい。SSL を使った通信が使用可能です。

Q18. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで vSphere 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

UDP からみると、Nutanix のハイパーコンバージドインフラは透過的な環境であるため、エージェントレス方式も、また各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式もサポートします。

Q19. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで Hyper-V 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式をサポートします。

Q20. Nutanix のハイパーコンバージドインフラで AHV (Acropolis Hypervisor) 環境を構築している場合、仮想マシンのバックアップをサポートしますか？

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式をサポートします。

Q21. Arcserve UDP に付属する Arcserve Backup ではなにができますか？

Arcserve UDP Advanced Edition に付属する Arcserve Backup は、復旧ポイント（UDP でバックアップしたデータ）をテープやハードディスクに二次バックアップできます。

Arcserve UDP の復旧ポイント以外をバックアップされる場合は、製品版の Arcserve Backup をご利用ください。

Q22. UDP のコンポーネントは仮想サーバやクラウド上の仮想マシンに導入できますか？

はい、以下のすべての UDP コンポーネントを仮想マシン上でご利用いただけます。

（UDP コンソール、復旧ポイント サーバ、UDP Agent for Windows、UDP Agent for Linux）

サポート対象の仮想環境やクラウドサービスは[動作要件](#)を参照してください。

Q23. 仮想スタンバイとは何ですか？

バックアップ データから仮想マシンを作成し、自動リカバリを実施する機能です。復旧済みの仮想マシンを常時準備できるため、本番サーバ障害時には仮想ゲストを起動していただければ、すぐに業務を再開できます。仮想スタンバイは、Windows マシンをサポートします。

Q24. インスタント仮想マシン（インスタント VM）とは何ですか？

最短時間でのリカバリを実現するため、バックアップ データを直接参照し、仮想マシンを生成する UDP の機能です。

Windows、Linux マシンをサポートします。

Q25. 仮想スタンバイとインスタント仮想マシン (インスタント VM) の違いは何ですか？

仮想スタンバイは、プランで事前に設定した仮想環境と仮想データを生成するためのハードディスク領域が必要です。物理的に独立しているため、スタンバイ サーバで運用を継続することができます。

インスタント仮想マシンは、本番サーバに障害があったタイミングで任意の仮想マシンを利用して起動できます。バックアップ データを参照して起動するため、仮想マシン用のハードディスクを用意する必要がありません。

仮想環境での継続運用を想定している場合は仮想スタンバイ、災害時の一時的な業務継続利用やバックアップ データの動作確認にはインスタント仮想マシンをお勧めします。

Q26. 仮想スタンバイやインスタント仮想マシン (インスタント VM) をクラウド上に構築できますか？

はい、AWS (Amazon Web Services) のクラウド コンピュータ (EC2) や Microsoft Azure のクラウド コンピュータ (UDP v6.5 Update 2 より対応) に仮想スタンバイとインスタント VM を構築できます。オンプレミスで障害が発生した際には、クラウド コンピュータ上の仮想スタンバイやインスタント VM ですぐに業務を再開できます。なお、クラウド環境では Windows OS は仮想スタンバイ、Linux OS はインスタント VM と OS によって利用できる機能が分かれます。

Q27. セキュア ブート環境のマシンをバックアップできますか？

はい。Windows/Linux 共にセキュアブート環境に対応しています (Linux は v6.5 Update4 より対応) 。